



わんぱく 相撲 全国大会

レポート

勇気、礼節、感謝の心を胸に
子どもたちの健全育成を目指す

予選を勝ち抜いた 強豪たちによる熱戦

8月4日、第35回を数える「わんぱく相撲全国大会」（男子）が開催されました。全国200地区33000人から予選を勝ち上がった小学4～6年生が覇を争う全国大会で、小学生の相撲大会では最大規模のものです。

「わんぱく相撲」は、遊び場の少ない東京の子どもにスポーツの機会をより多く与え、心身の鍛錬と健康の増進を目的として、1977年から行われている取り組みです。1985年8月4日に「わんぱく相撲全国大会・新国技館落成記念大会」として第1回大会が開催され、本年はそれ以来初の両国国技館以外での全国大会として、墨田区総合体育館で行われました。

わんぱく相撲全国大会には、元横綱の貴乃花関をはじめ、現大関の豪栄道関、そのほか多くの大

相撲力士たちが、小学生時代に出場・活躍しています。

今年も大会テーマである「勇気・礼節・感謝」～心にいつもわんぱくピース!!!～に則り、330名の出場選手達による熱い戦いが繰り広げられました。

新たな歴史となる
女子の全国大会が
今年ついに開催！

わんぱく相撲の長い歴史の中で、今年初めてわんぱく相撲の女子の全国大会が開催されました。会場には葛飾区奥戸総合スポーツセンターの土俵が用いられ、全国の予選を勝ち抜いた170名の女子選手たちが男子選手に引けを取らない迫力ある取組を行いました。

多数のメディアが取材に殺到するなど大会は大盛況に終わり、来年以降も女子の全国大会が継続して開催されることも決まっています。